

第10回スマート議会の在り方検討プロジェクト会議 議事概要

日 時：令和4年7月11日（月）13：00～14：05

場 所：議事堂6階601特別委員会室

出席者：スマート議会の在り方検討プロジェクト会議委員8名

資 料：第10回スマート議会の在り方検討プロジェクト会議事項書

資料1 議会資料の電子化について

資料2 政務活動費管理ソフトの概要及び実証実験概要

委 員：ただいまから第10回スマート議会の在り方検討プロジェクト会議を開催する。本日は資料閲覧システムの操作を体験していただくため、リモートではなく、実際にお集まりいただいた。SmartDiscussionを取り扱っている事業者にお越しいただいている。それでは、説明をお願いしたい。

（事業者の担当者によるシステム操作説明及び質疑応答）

委 員：では、他に質疑等がなければ、事業者の皆様はここで退席となる。本日は大変遠方までお越しいただき、感謝申し上げます。

（事業者退室）

委 員：それでは会議を続ける。資料閲覧システムへ登録する議会資料について、6月29日の代表者会議で、本年度資料閲覧システムを導入することが了承された。資料閲覧システムが導入された後、そのシステムへ登録する議会資料を整理したので、事務局から説明させる。

事務局：本年度資料閲覧システムを導入することが正式に決定した。資料1をご覧いただき、配布資料の電子化を目指していくということで、段階を踏んで、対応可能なものから順次していくということだが、まずは現在メールで送付している以下の資料ということで、代表者会議資料、議会運営委員会資料、全員協議会資料、執行部説明会資料、映写資料、本プロジェクト会議の資料といったものを、優先的に登録するというものであり、その後、他の資料、議会事務局が作成している資料や、執行部が作成している資料については、調整次第、順次登録していくということで、目標としては多様な、可能な議会資料を順次、資料閲覧システムへ登録して、最終的には配布資料の電子化、議会のペーパーレス化を目指して

いくという方針でいきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

委員：ただいまの説明に対して質問等あるか。

全員：意見なし。

委員：これの導入のスケジュール感はどうだったか、日程は。

事務局：入札（見積合せ）の日程か。

委員：そのとおり。

事務局：7月中に入札（見積合せ）の準備をして、8月に業者選定、9月から導入できればということで、今考えている。

委員：よろしいか。それではそのようにさせていただくのでお願ひする。続いて、政務活動費管理アプリについて。政務活動費のスマート化は中長期的課題となっている。石川県にある株式会社エイブルコンピューターから議会事務局に対して、政務活動費管理アプリの実証実験の参加案内があった。事務局からの説明の後、本プロジェクト会議委員が実証実験に参加するか否か、協議いただく。それでは事務局から補足説明をさせる。

事務局：資料2をご覧いただきたい。資料2については、石川県の株式会社エイブルコンピューターから各議会事務局に対して、政務活動管理アプリの実証実験に参加しないかという案内があったので、それについて紹介させていただく。当方もそこまで詳しく聞いていないので、この資料に従ってポイントだけ説明させていただく。製品の詳細については、2枚目の5ページのところにあるように、上のほうでシステム導入後ということで、同じ内容を1ヶ所に入力したらすべてに反映ということで、システムのほうに例えば日付を入れたら、様式のほうの日付にも連動していくとか、そういった入力者に優しいようになっていることや、7ページのシステム導入後ということで、これについては領収証についてもシステム上に添付できて、自動採番とか経費項目ごとに自動集計したりする機能があるようで、そういったものにも便利になっている。9ページの上のほうでは、システム上で議会事務局とのやりとりができるということで、承認申請して、例えば書類に不備があったりした場合、差し戻しという機能があって、差し戻しがあった場合も、議会事務局との担当とのやり取りがシステム上で完結できるので、議員にとっても、どこを修正したら良いかという指摘事項もメモ書きを見ればわかる、わかりやすいシステムになっている。この実証実験については無償参加ということであり、最後のページの裏面の施策内容で、実証実験の概要、進め方ということで、議会及び議会事務局へのヒアリングとシステム詳細説明、システム導入、マニュアル提供と導入レクチャー、ヘルプデスクによるサポート、議員及び事務局へのアンケート実施報告という流れになって

いて、実施期間については、令和4年度9月から3月の約半年間を想定ということだが、業者に聞くとこれは柔軟に対応していただけるということで、少し早めたりすることも可能である。実証実験の参加については、三重県議会全議員参加でなくて、プロジェクトメンバーだけでの参加も可能とお聞きしているので、この後実証実験に参加いただくかどうか意見を賜りたいと思う。説明は以上。

委員：今の説明に対しての質問、またあわせて、実証実験に参加するか否かについての意見をいただきたいと思う。いかがか。

委員：参加に賛同する。

委員：今の説明の中での質問等は特にないか。やってみないとわからないところか。参加について賛成の意見が今あったが、他の皆さんいかがか。

委員：この今、日付、実施期間は流動的に考えられるということだが、9月から3月の半年間でも、例えば遡って、その期間システムが使えるということで、入力を4月からの分もできるということか。

事務局：多分できると思う。

委員：9月から3月という、何かこういう区切り方なので。何か連動していて、打った日と何かとが。

事務局：4月のものが入れないのではということか。

委員：例えば9月の分を入力した日や、領収書の日付などを入れたときに、9月からの分しか反映されないのではなくて、例えばこれ実証実験ということだから、やるのなら4月からの分を入力したい。それができるか。両方だとまた、こっちでしているものと、バラバラになるけど、この1年分のことをこれで、テストというのか、モデル事業でできるのか。

事務局：詳細を聞いていないのでお答えできないが、恐らくできる。実証実験なので、別に入力期間内の日付のものしか駄目ということはないとは思っているのだが。

委員：そうであれば良いと思うが、今やっているのと、ダブルでしないといけないようなことになったらあれかなと思ったので。

委員：またそれは連絡させていただきたいと思う。

委員：事務局に確認する。これはあくまでもテストなので、実際に政務活動費は、今やっているものが実態としてはそれが使われて、あくまでもテストという、実験ということか、これは。

事務局：実験で別に他の、実際のものでなくても入力データとしては良いと思う。

委員：今、それぞれが使ってみえるシステムがあると思う。それで何か不都合が起こっているということなのか。私自身は使い勝手が良いので、皆さんが何か不都合が起こってこういう話になっているのか、同じのものに

したほうが最終的には都合が良いという思いがあるのか、その辺り。

事務局：今システムを使われている方もみえれば、使っていない会派、議員もみえるというところもあり、事務局側としては統一したものを使っていたらと様式も統一されるので、見やすくありがたいという意見は、内部ではある。

委員：趣旨はわかった。

委員：使い勝手がわからないときは、事務局が対応してくれるのか。

事務局：政務活動費は総務課が担当なので、政務活動費の担当でサポートさせていただけたらと考えている。

委員：今の自分らは、先ほどの委員と一緒に、今使っている部分で何もないので、両方を入れるのかなと思いながら考えて、やはり事務局は一元化したほうが便利なのはよくわかるが、その先のところを。

委員：うちの会派の事情を言うと、今までは良いが、来年からはまた探さないといけない。来年度から、うちの会派は頼む先が実はない。それから事務局に確認だが、さっき確認したかったのは、今年で今年でそれぞれやってみる。今回の政務活動費管理アプリの実証実験は、今年政務活動費を実際に打って実験したものは、それを本番として利用できるものではなくて、あくまでも実験なのか。

事務局：一応これが3月までということ、私から業者にこの期間は何とかならないかという確認をしたところ、実際の作業をする可能性がある6月頃までは、実証実験の期間を延ばせるという話だ。結論から簡単に申し上げると、この実証実験に参加した方は、それを使って提出をしていただくことも可能であるし、もともと使われているシステムで提出していただくことも可能という形で進めさせていただこうと、今打ち合わせをしているところではある。

委員：すると、実証実験参加となったら、今年度分をこのメンバーで実証実験しようとする、このメンバーは、今会派みんな使っているシステムではなくて、この実験に参加したらこれで正式に事務局に申請というか、それができるとのこと。

事務局：そういうこと。うちの様式を向こうにお渡しすれば、その様式でアウトプットできるようなシステムにしていただけという話ではあるので、最終出てくるのは紙ベースで出していいただくような形に今はなっているので、どのシステムから出てきても同じ紙が出てくれば問題はないと考えている。

委員：モデルでやるのが、実験でやるのが、そのまま使えるのであれば良いと思う。二本立てでやらなくてはいけないとなると、私個人としては、

受け継がれてきたものを使っていて、マクロで組んであって集計はできるが、個票の印刷に飛ぶことができないので、これだと個票の印刷に飛ぶことができるようなので、これが使えるのであれば、そのほうが良いと思う。

委員：先ほど委員もおっしゃったが、私も今使っているシステムが大変使いやすいシステムなので、このプロジェクトのメンバーでテストするというのは(賛成だが、)理解するが、それを来年の6月まで含めて、提出までやっていくということを、あくまで希望なら良いが、スマートのメンバーで全員揃えてそれでしましようということになると、少し厳しいところはあるかなと思う。

委員：これはテスト期間が終わって、実際に使われるかどうか分からないが、使われるようになった場合は、これはいくらぐらいが想定されるのか、お金は。

事務局：まだ費用のところまで伺えていないので、今後確認するという答えしか今はできないところ。

委員：多分そこが一番大事なポイントで、今皆さん、我々も使っているのが使い勝手が良くて、それでコストアップになるのであれば、変えるのが少ししんどいなと思う。その辺りを、また教えていただきたい。

委員：承知した。一応スケジュールとして、今回実証実験に参加されて、例えば来年度導入という話になったとしても、システム関係なので、仕様書の作成など何なりと時間がかかって、それで予算を申請してとなると、1年は空いてしまうかなと。今から決断をしていけば来年度の予算に上げていくことはできるが、今回実証実験を全部クリアしてからやろうとすると、令和5年度に入ってから、令和6年度の予算で上げていくという形になるので、令和5年度は丸々1年このシステムは使えないような状況でいくのではないかと。そこは予算上の都合だが、想定はされる。

委員：今、この政務活動費のほうは、自分たちの政務活動費の中でやっているのだが、事務局の方に言われると、これはもう事務局で持ってしまうということ。

事務局：予算的なものは、全額、議会事務局で負担なのか、それともやはりある程度は政務活動費からお願いしたいところは、今後の検討事項ということで、一つ考えるのはやはり議会事務局にとってもすごく便利になるので、作業的にもスムーズになるので、全額、政務活動費というわけではないと思うが、今後のことなので何とも言えないが、そこも含めて検討事項の一つだと思っている。

委員：他に何か意見はあるか。

全 員：意見なし。

委 員：それでは、目いっぱいまで実験をしたら令和5年度に間に合わないということなので、それではあまり意味がないかなと思う。委員からは、二つも並行して打つのはどうかという意見、いくらかわからないので判断しにくいという意見もある。

事務局：やはり、いくらかというのがなかなかわかりづらいと議論も進まないの
で、どれぐらいかかるかというのを確認させていただき、また次回報告
させていただくということではいかがか。

委 員：もう既に作っているシステムが使い勝手も良いという意見もある。事務局からは全部まとめていただくと、事務局としては助かるという意見もある。それぞれ全部総合して考えて、半年以上も丸々やってみてというよりも、例えば3か月ぐらい、それこそテスト的に3か月ぐらいやってみて、使い勝手とか、その間に費用もわかると思うので、3か月ぐらいなら並行して、本番というか、実際に計上して資料として残していくのは、今やっているシステムで今年度はやっていただくというのがベース、テストはテストとして3か月ぐらいテストをして、一体どんなものかというのをさせていただいて、その間に費用もわかる、使い勝手もわかる、そういう参加の仕方というのはどうか。

委 員：賛成する。

事務局：一つ業者から話があったので、案内だけだが、実証実験に参加する前に、うちの様式とは関係なく、システムとしてはこんなものですよというデモンストレーションはしていただけたという話はあったので、先に次のプロジェクト会議の時にでも、そのデモンストレーションをしていただくというのも一つありかなと思う。

委 員：実証実験の前にデモができるということか。それではまずそうしていただく
どうか。それでは、いろいろな意見をちょうだいして、記録しておいて
いただいて、まず、デモンストレーションをしていただいて、その結果、
また協議させていただくということではよろしいか。

委 員：デモまでに時間があるので、会派での意見を集約されたほうが、我々
だけで今聞いて判断するという感じで良いのか。

委 員：どうだろうか、デモをまずして。

委 員：私は反対で、自分たちが使い勝手もわからないのに、会派へ下ろすまで
いかないのではないかなと思う。先にデモンストレーションをしていただ
いて、今度こういうのをやっているのだがどうかというような話のほう
が順番ではないかなと思う。

委 員：意見いただいたが、実証実験の入口で会派の意見を聞くことにして、デ

モはまずやってみてはいかがか。

委員：わかった。

委員：参考までに教えていただきたい。皆さんは会派でシステムをそれぞれ契約してお金を払っているということが今わかった。私の会派はマクロで組んで自分たちで集計だけしているのです。しかし、ほとんど皆さんは、契約してシステムを購入されていて、会派によっては更新時期だということ。会派によっては更新なく、もうずっとそれで何年か前からしている。そのような感じということか、皆さんは。

委員：そのような感じである。

委員：教えていただき、感謝申し上げます。

委員：他に意見あるか。

全員：意見なし。

委員：では、政務活動費のシステムについては、実証実験に参加するかどうかの前の、まずデモンストレーションをしていただいて、その結果で協議をさせていただくと。それで実証実験に入る前に会派でも報告いただいて、方向を示していくということで、よろしいか。

全員：異議なし。

委員：ではそのようにさせていただく。他に何かあるか。

委員：今日使った SmartDiscussion か、それに関する意見集約はしないのか。

委員：会派で、か。

委員：いや、ここで。

委員：していなかったか。

事務局：SmartDiscussion になるかどうかというのは入札（見積合せ）の結果なので。今回はあくまで、今、執行部は見積合せの結果 SmartDiscussion が入ったというところで、この間は SideBooks の案内だったので、こういうものが今入っていて、これになるかもしれないというスタンスでのデモンストレーションである。

委員：SmartDiscussion と SideBooks をそれぞれ経験させていただき、端的に言うと明らかに SmartDiscussion のほうが使い勝手が良さそうだというふうに私は印象を持っている。複数の理由がある。今までメールで送っていたものも不要になることがまず 1 点と、使い方によっては、今日ここで映写資料として投影したのと同じことを、おそらく議場でできるだろうと。要するにパネルももう必要なくなるだろうと。自分でやるのか、執行部にやっていただくのかはそれぞれ議員次第だが、明らかに利便性が高くなるのではないかと。ポインターも付ける必要なく、ここでできるわけなので、画像を拡大するなど。私が気にしていたダウンロードで

きるのかということは、執行部や事務局の設定次第で、セキュリティ上出せないものはロックをかけて、持って行って構わない、例えば議案など様々なものがあるので、様々な通知、会派代表者会議の通知などいろいろ届くが、そういったものも欲しければダウンロードできると。キャパも従量制だが、必要な分だけ取っておけば、すべて保存しなくてもいい人はいいわけなので、軽量版で使うことも可能だということで、Sidebooks よりも私は良いのではないかと思う。だから、機能性を考えないと、すべて入札（見積合せ）で安かろうでやってしまうと、結果、使い勝手の悪いものが決まってしまうと困るのではないのかなというのが正直なところ。

委員：入札（見積合せ）のときに、こういう仕様のもを求めるということは。

委員：それをやるとまた公平性がということになってくるので。

委員：駄目なのか。でも仕様が違ったら当たり前で、仕様って公平なので。

委員：しかし事実上の決め打ちになってしまうので、工事発注などではそれをやると一番批判を受ける。

委員：事務局の見解は。

事務局：今のところ執行部が見積合せのときに使った仕様書をベースに考えてはいるが、議会として執行部とは違ってこういう機能が必要だということころは、仕様書にそこは盛り込んでいく必要があるかと考えているので、今日賜った意見等を踏まえて、仕様書案を検討させていただきたいと考えている。

委員：今日デモをしていただいたが、委員の皆さん、使い勝手としては良いという感想をお持ちだということは共通認識でよろしいか。

全員：異議なし。

委員：他によろしいか。それでは、本日いただいた意見を共有したいと思うので、事務局、今日の内容確認をお願いします。

委員：まず、資料閲覧システムで登録する議会資料については、対応可能なものから順次して行って、最終的に配布資料の電子化を目指していくということである。次に政務活動費管理アプリについては、まず、参加するかどうか決める前にデモンストレーションをしてから判断するというところで、その後、実証実験に参加するかどうか判断していくということになる。以上。

委員：ただいまの説明があったことについてよろしいか。

全員：異議なし。

委員：では最後に、次回の日程については後ほどの委員協議で協議いただく。なお、本日の会議の内容については、各会派でも報告いただくなど、議

員間の共有をよろしく願います。以上で本日の会議は終了する。